

※※2015年12月改訂（第8版）  
※2015年7月改訂

## ビタミンC製剤

日本薬局方

処方箋医薬品<sup>※</sup>

# アスコルビン酸注射液

100mg  
1g

日本標準商品分類番号  
873140

### ASCORBIC ACID Injection

## シートック<sup>®</sup>注100

## シートック<sup>®</sup>注20%

	100mg	1g
承認番号	(61AM)第166号	(63AM)第160号
薬価収載	1986年1月	1988年1月
販売開始	1986年1月	1988年1月

貯法：しゃ光保存

使用期限：外箱に表示

注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

#### 【組成・性状】

シートック注100は、1管（1mL）中に下記の成分・分量を含有する無色澄明の水性注射液である。添加物としてピロ亜硫酸ナトリウム0.5mg、ベンジルアルコール8mg及びpH調整剤を含有する。

シートック注20%は、1管（5mL）中に下記の成分・分量を含有する無色澄明の水性注射液である。添加物としてピロ亜硫酸ナトリウム5mg、パラオキシ安息香酸メチル7mg及びpH調整剤を含有する。

販売名 (容量)	成分名	分量 (1管中)	pH	浸透圧比 (生理食塩液に対する比)
シートック注100 (1mL)	アスコルビン酸	100mg	5.6	約4
シートック注20% (5mL)	アスコルビン酸	1g	7.4	

#### 【効能又は効果】

- ビタミンC欠乏症の予防および治療（壊血病、メルレル・バロー病）
- ビタミンCの需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患、妊産婦、授乳婦、はげしい肉体的労働時等）
- 下記疾患のうち、ビタミンCの欠乏または代謝障害が関与すると推定される場合
  - 毛細管出血（鼻出血、歯肉出血、血尿等）
  - 薬物中毒
  - 副腎皮質機能障害
  - 骨折時の骨基質形成・骨癒合促進
  - 肝斑・雀卵斑・炎症後の色素沈着
  - 光線過敏性皮膚炎（「3.」の適応に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。）

#### 【用法及び用量】

アスコルビン酸として、通常、成人1日50～2,000mgを1～数回に分けて皮下、筋肉内または静脈内注射する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

#### ※※【使用上の注意】

##### 1. 小児等への投与（シートック注100のみ）

低出生体重児、新生児に使用する場合には十分注意すること。〔外国において、ベンジルアルコールの静脈内大量投与（99～234mg/kg）により、中毒症状（あえぎ呼吸、アシドーシス、痙攣等）が低出生体重児に発現したとの報告がある。本剤は添加剤としてベンジルアルコールを含有している。〕

##### 2. 臨床検査結果に及ぼす影響

- 各種の尿糖検査で、尿糖の検出を妨害することがある。
- 各種の尿検査（潜血、ビリルビン、亜硝酸塩）・便潜血反応検査で、偽陰性を呈することがある。

##### 3. 適用上の注意

###### (1) 投与経路

経口投与が困難な場合や緊急の場合、また、経口投与で効果が不十分と考えられる場合のみ使用すること。

また、投与経路は静脈内注射を原則とすること。

なお、経口投与が可能で効果が十分と判断された場合には、速やかに経口投与にきりかえること。

##### (2) 筋肉内投与時

筋肉内注射にあたっては、組織・神経等への影響を避けるため、下記の点に注意すること。

1) 筋肉内注射はやむを得ない場合のみ、必要最小限に行うこと。

なお、同一部位への反復投与は行わないこと。

また、低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児には特に注意すること。

2) 神経走行部位を避けるよう注意すること。

3) 注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合は、直ちに針を抜き、部位をかえて注射すること。

##### (3) 投与时

1) 静脈内注射により、血管痛があらわれることがあるので、注射速度はできるだけ遅くすること。

2) 皮下・筋肉内注射により、注射部位に疼痛があらわれることがある。

##### (4) アンフルカット時

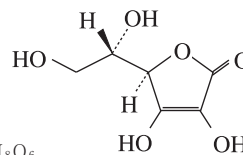
本剤はアンフルカット時のガラス片混入の少ないクリーンカットアンフルを使用しているが、さらに安全に使用するため、エタノール消毒綿等で清拭しカットすること。

#### 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：アスコルビン酸（Ascorbic Acid）

化学名：L-threo-Hex-2-enono-1,4-lactone

化学構造式：



分子式：C<sub>6</sub>H<sub>8</sub>O<sub>6</sub>

分子量：176.12

性状：本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、酸味がある。

水に溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点：約190℃（分解）

#### 【取扱い上の注意】

##### （安定性試験）

最終包装製品を用いた長期保存試験〔しゃ光保存、2年〕の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、シートック注100・注20%はしゃ光保存において2年間安定であることが確認されている。<sup>1)</sup>

#### 【包装】

シートック注100：1mL 50管、200管

シートック注20%：5mL 50管

#### ※【主要文献】

1) コーアイセイ株式会社：社内資料（安定性試験）

※【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

コーアイセイ株式会社 学術部

〒990-2495 山形市若葉町13番45号

TEL 023(622)7755

FAX 023(624)4717



※  
製造販売元

コーアイセイ株式会社

山形市若葉町13番45号